

草原新聞

第10号

平成22年12月発行

日本の生物多様性と阿蘇の草原



盆花:ヒゴタイほか草原の草花たち

(写真:大滝典雄)

生物多様性って?

「生物多様性」という言葉を耳にする機会が多くなりました。地球上に三千万種いるといわれる生物は、ひとつひとつが個性を持ち、それぞれが様々な関係でつながっています。原生林のような場所だけでなく、田畑や草原、雑木林など、人の手が加わった自然の中にも多くの生き物が棲んでいて、そうした全体をつなぐが、私たちの暮らしを支える産業や文化の源となるなど、様々な恵みをもたらしてきました。

しかし今、世界中でたくさん生き物たちが危機的な状況に陥っています。わが国の生物多様性国家戦略¹では、生物多様性の危機として、「開発や乱獲による影響」、「里地里山などの管理が行き届かないこと」、「外来種等による影響」、「地球温暖化による影響」を指摘しています。

これらの危機が依然進行するなか、阿蘇のような草原を含む里地里山の保全是、日本の生物多様性を守っていくために重要な課題となっています。

¹「里地里山」とは、集落を取り巻く農地やため池・二次林と人工林・草原などで構成される地域



阿蘇の草原が支える生物多様性

阿蘇の草原は千年以上も前から、採草、放牧、野焼きやなど地域の人々の営みにより守られてきました。

草原には、約六百種の植物が生育し、昆虫や鳥類、哺乳類など多種多様な動物も生息しています。これらの中には阿蘇で見られないものもあり、阿蘇の草原は、日本の生物多様性保全において、重要な役割を担っています。

特に毎年草刈りを行う採草地には、様々な草原性植物が見られ、その草花を墓前に手向けの「盆花採り」をはじめ、独特の文化も生まれてきました。

阿蘇の草原の危機

しかし、そうした自然との関わりも、時代とともに弱まってきました。若い人たちが草原に行く機会が減り、草原のことをよく知らない人が増えてきました。また、野焼きや採草が行われなくなつた草原ではヤブ化が進むなど、生物多様性の低下が生じています。

草原の生物多様性を守るために

過去に損なわれた自然を取り戻すため、現在、全国二十二地区



環境省と牧野組合が協働で、牧野内の草花や地名、維持管理の状況などを調べて牧野のカルテを作成。



利用・管理が困難になっている野草地を取得し、維持・保全活動など行うトラスト活動。(写真: NPO 法人阿蘇花野協会)



で自然再生推進法に基づく自然再生事業が行われています。阿蘇では、草原再生に向けて取り組みを進める団体や個人が集まり、法に基づき、阿蘇草原再生協議会²が設立され(平成十七年)、構成員による様々な活動を進めることにより、生物多様性豊かな草原を次世代に引き継いでいこうとしています。その中で、多様な動植物が生息・生育できる草原環境の保全と再生³を直接の目的とした活動としては、草原環境に関する調査やNPOによる花野の再生などが進められています。



クララにとまるオオルリシジミ(手前)

【牛たちにもある好き嫌い】
放牧を行っている草原には、牛や馬が草を食べてなめらかになったところと、食べ残して草花がこんもりと茂ったところがあります。

これは、牛や馬が、草原の草を食べ分けているからです。やわらかくておいしい草は食べるけれど、トゲや毒がある草は食べません。たとえば、トゲのあるツクシアザミ、毒のあるクララ、オキナグサ、苦味のあるワラビなどを避けます。

子どもに伝える阿蘇の草原



草原でともにくらす生き物たち

ここでは、小学生・中学生向けの草原新聞で取り上げている題材を簡単に解説しています。

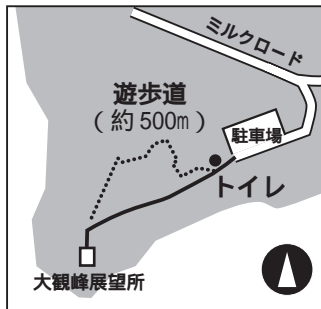
【草原の草花がチョウを呼ぶ】
牛や馬が食べ残した草花を食べて育つ生き物もいます。

草原性のチョウ、オオルリシジミの幼虫は、クララを餌とし、これ以外のものを食べません。絶滅危惧種に指定されているこの希少なチョウが阿蘇の草原に棲んでいるのは、クララがあるからこそなのです。

【動物の糞を好む虫たち】
一方、牛や馬の落しものを餌とする虫もいます。これは糞虫と呼ばれ、センチコガネ、オオセンチコガネ、オオマゲソコガネなど、多くの種類が確認されています。

牛や馬が草を食べ、食べなかつた草をチョウの幼虫が食べ、さらに牛や馬がした糞を糞虫が食べる・・・草原の生き物たちは、お互いに関係し合いつながり合いながら共に暮らしているのです。

親子で楽しむ草原 × 第10回：大観峰園地



外輪山がカルデラの内側に突出した部分を、鼻」と言います。大観峰は、古くは「遠見が鼻」と呼ばれ、阿蘇の山々を一望できる人気のビューポイントとなっています。

大観峰駐車場から展望所に至る道の北側に遊歩道があります。ゆるやかな丘を散策すれば、四季折々の草原の草花や九重連山の眺めが楽しめます。

子どもたちの作品を募集しています！

子どもそうげんしんぶん だい10ごう ぬり絵コンテスト

(小学1年生から3年生が対象です)

応募方法

『子どもそうげんしんぶん』の表面のぬり絵を完成させ、封筒に入れ切手を貼付の上、投函してください。

作品は展示後返却いたしませんので新聞の裏面に住所・氏名をご記入ください。

応募作品の中から入賞作品を選び、表彰時に賞状と副賞をお渡しします。表彰式の開催については、入賞者に後日お知らせします。

あて先：環境省 阿蘇自然環境事務所 担当：木部
〒869-2225 熊本県阿蘇市黒川1180

締め切り：平成23年1月11日(火)



あそか 第4回 阿蘇の草原を描こう！ コンテスト

(小学生・中学生が対象です)

～今年も作品募集します！～

阿蘇の草原をテーマにした絵画作品を募集します。子ども達の力作をお待ちしております。

詳しくは、「阿蘇の草原を描こう！コンテスト」応募用紙、草原再生キッズホームページをご覧ください。

<http://www.aso-sougen.com/kids/>

締め切り：平成23年2月4日(金)

ご応募いただいた作品は、南阿蘇ビジターセンター、阿蘇市立図書館(内牧)、なみの高原やすらぎ交流館、あそ望の郷くぎの、道の駅小国ゆうステーションで展示いたします。



風物詩

「秋の米塚」

秋、米塚は黄金色に染まります。採草作業が終わった後の独特の模様、草原と人との関わりが見えます。

保護者の方へ

今回の子ども向け草原新聞のねらい

小学生・中学生向けに発行している子ども向け草原新聞では、阿蘇の草原には、いろいろな動植物が生息・生育していること、それぞれが草原から必要なものを得て、ともにくらしていることを伝えています。子どもたちと、阿蘇の草原のすばらしさについて話してみてください。

